



タカ狩りが結ぶ 家康と西尾の縁

武士のたしなみとして親しまれ、徳川家康も愛したタカ狩りと西尾とのつながりを追う企画展「吉良御鷹場―家康も訪れた鷹狩の聖地」が、西尾市一色町の一色学びの館で開かれている。九月三日まで。無料。

(角野峻也)

家康は無類のタカ狩り好きとして知られ、タカの獲物となる鳥獣が多く生息していた西尾にも一五七九―八八年に五回、訪れていた。市内には、タカ狩りの本陣を敷いたとされる石碑も残る。

タカ狩りに関する古文書や浮世絵などが並ぶ企画展「西尾市一色町の一色学びの館で

オオタカやキジの剥製、家康の家臣がタカ狩りに関する記述も残した日記の複製など関連史料二十九点を展示した。

市内を流れる矢作古川の下流一帯は河原や湿地などが広がり、水が豊かで絶好の狩り場だったと紹介。家康だけでなく、織田信長も徳川家との友好関係を演出するため、西尾でタカ狩り

一色 剥製や家臣の日記複製を展示

を行ったとも解説している。

担当した利光正恵学芸員は「大河ドラマで描かれた西尾でのタカ狩りシーンはわずか。今回、深掘りしたので、ぜひ見に来てほしい」と呼びかけた。

関連イベントとして、静岡文化芸術大の二本松康宏教授（伝承文学）による講演会「徳川家康と鷹狩りの文化史」が三十日午後二時から、西尾市一色町公民館である。定員八十人で先着順。参加費二百円。一色学びの館へ電話で申し込む。利光学芸員による展示解説は八月六日午後二時半から同館であり、事前申し込みは不要。

月曜休館。午前九時～午後七時。☎同館 0563(72)3880